

あ ら こ う つ う し ん

新高通信

令和7年12月22日発行



第88号

秋田県立新屋高等学校

「校歌」に寄せて

教頭 阿部 智博

新屋高校への赴任が分かり、最初に思い浮かんだのは「校歌」でした。職業柄（音楽教員）ということもありますが、本校の校歌には以前から格別の想いがあります。実はこの校歌を作曲なさった三善晃（みよしあきら）先生、そして三善先生が校歌を作曲することに大きく関わられた本校第7代校長でもある高橋紘一先生と私は、深いご縁があります。三善先生は、1933年生まれの現代日本を代表する作曲家で、世界的指揮者の小澤征爾氏等の音楽家を輩出した桐朋学園大学の学長や、クラシック音楽の殿堂である東京文化会館の館長も務められました。本校が開校した昭和59年、高校生だった私の恩師が高橋紘一先生です。紘一先生は吹奏楽界に一時代を築き、その功績を讃え秋田県吹奏楽コンクールには「高橋紘一賞」が制定されています。紘一先生のご指導の下、吹奏楽部で演奏した曲が三善先生の楽曲でした。その曲は内容的にも非常に難解で哲学的で、技術的にも複雑な変拍子等極めて高度で、いわゆる「現代音楽」と呼ばれる作品でした。「どんな人がこの曲を作ったのだろう」と妄想したものです。そんな三善先生と初めてお会いしたのが、本校の校歌を三善先生が作曲されることとなり、秋田市や新屋地区を視察するために来秋、紘一先生がその案内をするという機会でした。紘一先生の勤務校（私の母校）に立ち寄られ、その際に勇気を振り絞り「ようこそ秋田へ」と話しかけた初対面である高校生の私に三善先生は「やあ、こんにちは。大きいねえ（身長）。僕の曲を演奏してくれてありがとう」ととても優しいお声と表情で語りかけてくださったことは、大切な思い出です。教員になってからも、何度か三善先生とお話させていただく機会がありましたが、出会いのきっかけが新屋高校校歌であることをいつも懐かしく話されておりました。残念ながら2013年に80歳でお亡くなりになり、赤坂のサントリーホール（クラシック専用ホール）での「お別れの会」にも参加しました。実は、私が実際に本校の校歌の楽譜を見たり聴いたりしたのは、教員となってからでした。自身の知る三善先生の作風から、いわゆる一般的な校歌が全くイメージできなかつたのですが、本当に素晴らしい（と一言でまとめるのも躊躇するほど、安心感と斬新さが入り交じった）校歌が作られ、代々の生徒に愛され歌い継がれてきたことを、三善先生も紘一先生も喜ばれていることでしょうか。実際どのように素晴らしいのかという音楽的な話は、機会があればまたいつか…。



日本の文化遺産に触れて

2 学年主任 齊藤 明子

保護者の皆様、地域の皆様、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、去る11月3日から6日までの3泊4日で実施いたしました京都・大阪での修学旅行は幸いにも天候にも恵まれ、日本の伝統と文化に触れる大変貴重な機会となりました。初日は世界文化遺産の鹿苑寺金閣、清水寺を拝観しました。晴天の下に輝く金閣寺舍利殿の壮麗さ、清水寺の舞台からの美しい眺望を目の当たりにし、生徒たちは写真とはまったく違う実物に感嘆の声を上げていました。2日目は、班ごとに計画を立てて行動する京都市内自主研修でした。公共交通機関を利用し、嵐山、宇治、伏見などの目的地に向かいました。文化遺産の建造物や庭園の鑑賞、そして食事や買い物を楽しむなど、京都の町を思い思いに散策したようでした。最終日は大阪万博記念公園に向かい、太陽の塔と国立民族博物館を訪れました。ここでは、世界各地の多様な文化や暮らしに触れる機会を得ました。異文化理解の重要性を肌で感じるとともに、日本の文化を相対的に捉え直す学びの時間となりました。

修学旅行を終え、いよいよ生徒たちは進路選択を具体的に考え、自己の将来を見据え、動き出す大切な時期を迎えます。一人ひとりが希望する進路を達成できるように、学年部職員一層指導に力を入れて参ります。今後とも温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



おらほの学校へようこそ ～令和7年度地域懇談会～

総務主任 杉田 道子

9月30日（火）に地域懇談会が開催されました。会の内容は、（1）生徒指導や特別活動、進路指導や探究活動などの学校からの報告、（2）地域の皆様から学校への御助言や御提案です。生徒たちを本当に温かく見守ってくださっていることに感謝いたします。懇談会後は、自慢の学食にて人気メニューをご賞味いただきました。こういった機会を通じて地域の皆様からいただく声は、本校がこの新屋地区でますます成長していくための大切な栄養素です。今後とも地域の交流を大切にしたい教育活動を行ってまいりますので御支援を賜りますようお願いいたします。

そば打ち ～PTA研修会～

総務部 高橋朗子

11月29日（土）、本校調理室において開催した「そば打ち体験」には、腕に自信のある保護者・職員13名が参加し研修を行いました。講師で学校後援会顧問の武藤真作さんから、全行程実演ののち各班に分かれての作業になりましたが、1つ1つの作業が難しく蕎麦に翻弄され思い通りに事が運びません。苦勞のすえ完成した蕎麦は、不揃いながらも食すと香り高い絶品でした。参加くださいました皆様に改めて感謝申し上げます。



【参加者の声】 そば打ちは初めてでしたが、そば粉に水を混ぜ、練る作業ではそばのこうばしい香りが部屋中に漂い、できあがりにわくわくしていました。学校後援会顧問の武藤さんや、昨年も参加された保護者の方からアドバイスをもらいながら、グループで和気藹々と作業を進め、なんとか形にすることができました。やや太めで不揃いながら、最後は武藤さん特製のそばつゆで美味しくいただくことができ、非常に楽しく貴重な体験でした。

保健室の利用状況について

保健教育相談部 豊嶋亜紀子

夏休み前は熱中症様症状での来室が、夏休み明けは傷病だけでなく悩みを抱えた人の来室が多くありました。秋以降は新型コロナウイルスから始まり12月現在はインフルエンザA型が流行したため風邪症状を訴えた来室者数も多く、年間を通しての来室者数は過去最多を更新中です。

高校卒業後は体調管理も自ら行っていかなければいけません。高校生のうちに自分の体とじっくり向き合い、自身の体の傾向と対策を掴む練習をしていくといいですね。

